

令和 7 年度

「運営に関する計画」

(中間評価)

大阪市立阿倍野小学校

令和 7 年 11 月

大阪市立阿倍野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

〈現状〉

令和6年度大阪市小学校学力経年調査の児童質問紙調査において、自己肯定感に関する「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、79.1%であり、大阪市平均より0.9ポイント下回っている。しかし最も肯定的に回答する児童の割合をみると本校児童の割合は、48.8%であり、大阪市平均より1.4ポイント上回っている。いじめに関する「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合は95.5%であり、大阪市平均より0.3ポイント下回っている。また、最も肯定的に回答する児童の割合は81.3%であり、大阪市平均より0.2ポイント上回っている。

〈課題〉

自己肯定感をより一層高め、自分で様々なことに挑戦したり、人のために何かできることはないか考え方組んだりできるようにしていく。また、その取り組みを通していじめはどんな理由があってもいけないことであるという強い意識を高めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〈現状〉

令和6年度大阪市小学校学力経年調査の結果、4年生の理科において大阪市平均正答率を少し下回っているが、他の教科においては、大阪市平均正答率を上回っており、学ぶ力については、概ね備わっているといえる。児童質問紙調査について、考えを深めることに関する「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」では、最も肯定的に回答する児童の割合は47.1%であり、大阪市平均を上回っているが、課題であると考える。運動に関する「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」に対して最も肯定的に回答の割合は55.6%であり、大阪市平均より8.2ポイント下回っている。

〈課題〉

主体的・対話的で深い学びとなるよう授業を工夫し、既習内容を生かし、自ら考え、友だちとの意見交流を通して、さらに自分の考えを深めたり広げたりできるようにする。体力向上においては、楽しく体を動かす機会を設け、子どもたちが運動やスポーツに興味関心をもち、より上手に体を使うにはどうすればよいか考え方組むことができるようとする。

【学びを支える教育環境の充実】

〈現状〉

一人一台配備されている学習者用端末については、各教科・領域の学習内容によって効果的に活用するようにしている。子どもたちは端末の操作に慣れ、目的に応じて進んで活用することができる。教職員は一人一人に寄り添い、子どもたちがより成長できるように、いろいろな取り組みを考えたり、教材研究等を行ったりしている。

〈課題〉

今後の社会を見据え、子どもたちが情報機器を日常的に活用し、ICTを活用する能力向上していく。そして、ICTを活用した個に応じた学びや協働的な学びを実現できるようにしていく。よりよい教育を提供するには教職員の健康も必要不可欠である。働き方改革を推進し、教職員がゆとりをもって、子ども一人一人に寄り添うことができるようとする。また、学校での取組を学校ホームページ等を活用し発信し、学校・保護者・地域で協力して子どもたちを育てていくことができるようとする。

中期目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめなどが起こらないよう、子ども同士が認め合い、支え合う仲間づくりに努めている」について、肯定的回答率を90%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、「大変そう思う」の割合を30%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、「当てはまらない」と回答する児童の割合を、5%以下にする。
- 令和7年度3学期のQ-Uにおける「学級生活満足群」の割合について、低学年60%以上、高学年70%以上を維持できるようにする。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、概ね1.05以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」に対して、「難しいと思わない」「どちらかというと難しいと思わない」に回答する児童の割合を、70%以上にする。
- 令和7年度3学期のQ-Uにおける「学習意欲」得点について、9.5以上を維持する。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点が、大阪市平均より上回るようにする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末を活用した授業を高学年で週に3回以上、低学年で週に2回以上実施する。
- 小学校学力経年調査において、4教科の「活用(思考力・判断力・表現力)」について、市平均との比較値を前年度より高める。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる勤務時間に関する【基準2のア:1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない】を満たす教員の割合を90%以上にする。
- 児童アンケート「すすんで読書をしている」、保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている」のそれぞれにおいて、肯定的回答率70%以上を維持する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、肯定的答率85%以上を維持する。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 児童アンケート「相手の目を見て自分からあいさつをしている」「場に応じた正しい言葉づかいをするようにしている」について、「そう思う」と回答する児童の割合85%以上を維持する。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。
- 児童アンケート「けがをしないために、ルールを守って過ごしていますか」について、肯定的答率を80%以上にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。
- 児童アンケート「すすんで読書をしている」、保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている」のそれぞれにおいて、肯定的答率65%以上を維持する。
- 保護者アンケート「学校は、説明会や懇談会、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、教育方針や学校の取組を保護者に分かりやすく知らせている」について、肯定的答率85%以上を維持する。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立阿倍野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 ○ 保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、肯定的回答率 85%以上を維持する。 ○ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。 ○ 児童アンケート「相手の目を見て自分からあいさつをしている」「場に応じた正しい言葉づかいをするようにしている」について、「そう思う」と回答する児童の割合 85%以上を維持する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>毎月の生活指導部会や職員会議後の情報共有、日々の「心の天気」や年2回のQ-Uを活用することで、学校全体で学級のようすや児童の心情変化を把握し、心のケアや指導につなげる。 (いじめへの対応)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 ・ 3学期のQ-Uにおける「学級生活満足群」の割合について、低学年 60%以上、高学年 70%以上を維持できるようにする。 <p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>年3回の避難訓練を通して、非常時に安全に避難できるようにする。また、学期に1回の通学路点検、毎月の安全点検により、危険個所に対して早期に対応するとともに、「見守り隊」や保護者との協働による安全な学校づくりをすすめる。</p> <p style="text-align: right;">(安全教育の推進)</p> <p>指標</p> <p>保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、肯定的回答率 85%以上を維持する。</p>	B

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

道徳の学習や学級活動、あべっこ班（たてわり班）活動、ペア学年での「なかよし集会」を通して、思いやりのある集団づくりをすすめることで、自己有用感を高める。

（道徳教育の推進）

B

指標

児童アンケート「あべっこ班での活動を通して、自分の良いところや友だちの良いところを見つけることができましたか」について肯定的回答率の割合を85%以上にする。

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

年2回の「あいさつ運動」や代表委員会の活動、その他、授業中の発言や職員室への入室時の言葉など機を捉えて指導することで、場に応じたあいさつや言葉づかいができるようにする。

（道徳教育の推進）

B

指標

児童アンケート「相手の目を見て自分からあいさつをしている」「場に応じた正しい言葉づかいをするようにしている」について、「そう思う」と回答する児童の割合85%以上を維持する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容】について（進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などを記述）

- ① 日々の「心の天気」や年2回のQ-Uを活用し、学級の健康状態や児童の心情変化を把握している。毎月の生活指導部会や職員会議後に得られた情報は学年や学校全体で共有し、気になる児童にはその都度個別に声かけや面談の機会を設け、必要に応じて支援を行う。いじめ防止教育はNHK for school等の動画教材を含め年間を通じて実施し、いじめが許されない行為であるとの意識づけを図る。教職員間での共通理解を深める場を定期的に持つことで早期発見と適切な対応が可能となり、保護者への説明や安心提供にも努めている。
- ② 避難訓練は担当だけでなく生活指導部や職員会議で協議し、教職員全体で計画を練って実施している。1学期に地震・津波避難訓練、保護者への引き渡し訓練を行い、通学路点検は1・2学期各1回、毎月の安全点検も計画通り実施している。訓練内容は年々深まり、非常時を想定した具体的な訓練ができている。教職員の協力で計画遂行が可能となり、今後も見守り隊と連携して登下校時の児童の安全指導や寄り道対策、門前待機の是正など学校外での安全対応にも取り組む必要がある。
- ③ たてわり班活動やペア学年のなかよし集会を年間継続し、異学年交流を通して児童の役割意識や他者尊重の姿勢を育てている。毎週木曜の児童集会は児童に好評で、絆が深まり、高学年の低学年への働きかけや思いやりが育っている。道徳で学んだ内容を学級活動や班活動に展開し、心の育成につなげている。計画は概ね順守され、交流の成果が見られる。
- ④ 代表委員会やあいさつ運動、たてわり班活動、道徳の学習を通して「あいさつを目を見て自分からする」習慣づけが進んでいる。門や廊下で相手と目を合わせてあいさつする児童が増え、職員室入室時の礼儀正しさも見られる。一方で個人差は残るため、継続的な指導と活動の定着が必要であり、児童会や担任と連携して今後も意識向上を図っていく。

今後の改善点

【取組内容】について（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述）

- ① 学校全体で児童の情報を継続的に共有し、「心の天気」や Q-U を活用して学級の様子を把握する。問題発生時だけでなく経過も共有し、担任任せにせず教職員が連携して組織的に対応できる体制を整える。
- ② 通学路を守り、安全に登下校の仕方を引き続き指導していく。今後も継続して安全な学校づくりをすすめるとともに、安全な登下校の仕方や学校生活の過ごし方についての児童への指導をしていく。

避難訓練等については、前年の反省点を活かしながら改善していく。また、地域にも協力を仰いで積極的に関わってもらう。訓練の重要性を繰り返し児童へ伝えることで、有事に備えた訓練になるように努める。
- ③ 今後も道徳の学習や学級活動、あべっこ班での活動を通して、思いやりのある集団づくりに努めていくとともに、6年生だけでなく5年生の児童も高学年として、低学年の児童に声をかけたり、リーダーをサポートしたりできるように、指導者が声をかけていく。また、あべっこ班活動の中で、自分の良いところや友だちの良いところを見つける活動やゲームを意図的に取り入れるなど、児童が自他のよさに気付けるよう活動を工夫し、全員が積極的に取り組んで自己有用感を高められるようにしていく。
- ④ 自分から進んで廊下や階段でもあいさつをすることや、場に応じた言葉づかいができるように今後も継続して指導していく。

大阪市立阿倍野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率をいずれの学年も対全国比より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。 ○ 児童アンケート「けがをしないために、ルールを守って過ごしていますか」について、肯定的回率を80%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科の研究を行い、公開授業を各学年1回以上実施する。また、基礎的・基本的な学習内容についての理解を確かにするための取組（朝学習やチャレンジタイム、家庭学習の習慣を確立する取組など）を行う。</p> <p>（言語活動・理数教育の充実<思考力・判断力・表現力等の育成>）</p> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率をいずれの学年も対全国比より向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が自分の考えをもち、話し合ったり発表したりする場を日々の授業や活動の中で取り入れる。</p> <p>（言語活動・理数教育の充実<思考力・判断力・表現力等の育成>）</p> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。</p> <p>児童アンケートにおける「自分の考えを伝えるときに、相手を意識して表現するようしている。」に対して、最も肯定的な「とてもそう思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。</p>	B

取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

運動週間や「みんな遊び」により児童が運動する機会を増やすとともに、記録表を活用するなどの体力向上の意識が高まるような工夫をする。

(体力・運動能力向上のための取組の推進)

B

指標

- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的回答率85%以上にする。
- ・ 保護者アンケート「学校は、子どもたちの体力向上に努めている」について、肯定的回答率85%以上を維持する。

取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

学校のきまりをもとに、ルールを守ることが安全な学校生活につながることを理解できるようにする。また、保健強調週間における「元気アップカード」の活用や、毎月の「保健だより」、安全に関する掲示物の作成などを通して、けがの予防について児童や保護者の意識を高める。

(健康教育・食育の推進)

B

指標

児童アンケート「けがをしないために、ルールを守って過ごしていますか」について、肯定的回答率を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容】について（進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などを記述）

- ① 国語科研究を中心に、朝学習やチャレンジタイムで詩の音読や短作文指導等を組織的に実施し、語彙力や表現理解の向上を図っている。原稿用紙の使い方や文字数制限の指導により作文への苦手意識が軽減され、文の始めの空けや感情表現など基礎的な書字習慣が定着してきた。学内公開授業は各学年で計画的に行い、取り組み内容を校内で共有しており、家庭学習では漢字・計算・音読の定着や自学課題の提示を徹底している。教員間での成果共有と年間計画の体系化により、言語力向上の系統的実践へつなげている。
- ② 友達の意見と自分の意見を比較して聞く指導や振り返りで、多様な考えを認めて意見を書き表す力を育てている。ペア・グループ活動を設け、場の工夫やテンプレート提示で書くことが苦手な児童も参加しやすくしている。国語科を中心に他教科でもノートやプリントに考えを書かせ、ロイロノート等で意見を可視化して交流することで、自信のない児童がペアトークを経て全体発表できるようになるなど、発言力と表現力の向上が見られる。
- ③ 外遊びは天候や暑さ指数の影響で制約があったが、条件が整えば学年の約8割が外で遊び、「みんな遊び」を計画的に実施して運動機会を確保している。長なわ週間や班分けで苦手な児童も参加しやすくし、運動会練習は教室での動画視聴を取り入れて実施した。元気アップカードや保健だより、発育測定前の指導だけが防止意識を高め、けが時の聞き取りで予防策を考えさせている。体育科のワークシートや記録表の工夫により意欲向上も見られる一方、長期の屋外自粛による外遊びへの消極性が残るため、今後も継続的な声かけと工夫が必要である。
- ④ 1学期から学校のきまりを丁寧に指導し、保健強調週間や保健だより、保健室前掲示で安全意識を高めている。大縄や「みんな遊び」で運動の機会を増やしたが、6月以降の猛暑で外遊びが制限され運動不足が生じた。廊下走行や靴の不適切な履き方、立ち入り禁止場所の通行等ルール違反によるけがや友達とのトラブルは依然発生しており、発生時には個別に安全指導を行っている。各クラスで再確認と日常的な声かけを継続し、ロイロノートで情報共有を図っている。

今後の改善点

【取組内容】について（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述）

- ① 朝学習や家庭学習については、これからも継続して児童に声をかけたり、家庭と連携したりしながら進めていく。チャレンジタイム(15分間)における言語能力を向上させる学習においては、系統性を考慮したより効果的な学習内容を検討し、年度内に整理して共有する。
- ② 話し合いや発表を進めるために、話型の提示、話し合いの形態（ペア・トリオなどのグループや全体）や課題設定の工夫が今後も必要である。また、指標にある「自分の考えを深めたり、広げたりすること」に対する学年に応じた説明もあった方がよい。
- ③ 体育科の学習だけでなく、「みんな遊び」を計画的に実施することで、体を動かす楽しさに気付けるようにしている。夏場は暑さで外での運動ができない日が多くなるため、体力向上の取り組みが難しくなる。そのため、教室や多目的室などを活用した活動も考えていく必要がある。1学期には「長なわ週間」を行い、2学期にも「なわとび週間」「かけ足週間」を行う予定である。これらの体力向上週間の際には、5月に配布した記録ができるカードを活用し、体力向上の意識を高めていきたい。
- ④ 児童同士の声掛けや係活動等による働きかけを活発にし、注意される前に自ら安全な行動がとれるように指導していく。また、保健強調週間における「元気アップカード」の活用や目につく分かりやすい掲示物の作成など委員会活動での呼びかけも検討していく。そして、引き続き、廊下・階段を走らない指導を全員で行う。

大阪市立阿倍野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。 ○ 児童アンケート「すすんで読書をしている」、保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている」のそれぞれにおいて、肯定的回答率65%以上を維持する。 ○ 保護者アンケート「学校は、説明会や懇談会、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通じて、教育方針や学校の取組を保護者に分かりやすく知らせている」について、肯定的回答率85%以上を維持する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXデジタルトランスフォーメーションの推進】</p> <p>「キーボードチャレンジ」の時間やアプリの操作方法の習得など、基本的な技能を高めることで、ICTを活用して協働的な学びが進められるようになる。また、情報モラルを育むための実践や、教員自身の情報活用能力向上をめざす研修、ICT支援員との連携に取り組む。</p> <p style="text-align: right;">(ICTを活用した教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「ゆとりの日」を月2回程度設定する等、「学校園における働き方改革推進プラン」を促進する。</p> <p style="text-align: right;">(働き方改革の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。</p>	C

取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】

係活動や委員会活動による取組、図書に関する掲示物の工夫、学級・学年文庫の充実、学校司書との連携を通して、児童が読書習慣を身につけられるようにする。

(「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)

B

指標

- 児童アンケート「すすんで読書をしている」において、肯定的回率を 65%以上にする。
- 保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている」において、肯定的回率を 70%以上にする。

取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

毎月の学校だよりや学年だより、ホームページを通して学校の取組や児童の様子を保護者や地域に広報することで、家庭や地域との連携を深められるようにする。

(教育コミュニティづくりの推進)

B

指標

- 保護者アンケート「学校は、説明会や懇談会、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、教育方針や学校の取組を保護者に分かりやすく知らせている」について、肯定的回率 85%以上を維持する。
- ホームページへの年間アクセス数 20,000 件以上を維持する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容】について（進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などを記述）

- ナビマを活用した学習の基礎基本の定着、ロイロノートを活用した写真共有や意見交流、発表資料作成、アンケート実施など幅広く ICT を活用している。また、情報モラルやパスワード管理などの指導も行っている。1年生も9月に学習者用端末を配付して活用を進めている。4年生以上は、週1回朝学習の時間にキーボードチャレンジを行い、入力技能やタイピング力を向上している。1学期には新転任教員向けの研修で教員の運用力も高めた。児童の端末活用率は概ね高く、技術差の解消と継続的な技能向上が今後の課題である。
- 「ゆとりの日」を設定して17時30分退勤を意識している。また、時程の見直しや業務のデジタル化、事務支援の充実で放課後の余裕を確保している。会議の精選や印刷・配付の効率化により早退が進む一方、行事集中時や業務量の多さで持ち帰り残業が発生し負担感が残る。月2回の運用や計画的な業務遂行で改善が見られるため、今後も業務削減と継続的な工夫で定着を図る必要がある。
- 朝や隙間時間、週1回の図書の時間などで読書習慣を定着させている。学級・学年文庫や図書委員会の図書館開放、読み聞かせ、掲示物、ボランティアのお話会など多様な仕掛けで興味を引き、児童の自主的な読書意欲が高まっている。学級文庫の工夫や「借りた本を共有する」仕組み、学校司書との連携により読書の幅が広がり、集中して読む姿や読める文量の増加が見られる。今後も関連図書の配置や委員会活動の継続で、更なる定着を図る。
- 学年だより・学校だより、ホームページ、ミマモルメ、ロイロノート等を計画的に活用し、教育方針や学年・学校の取組を保護者へ継続的に発信している。写真や資料添付により情報の具体性を高め、各学年月1回以上の学習の様子掲載で学校活動を可視化している。デジタル配信の普及で伝達力が向上し、ホームページの閲覧数は1万7千以上に達している。機器運用の変更や行事対応にも対応しつつ、保護者との連携強化と地域への広報に努めている。

今後の改善点

【取組内容】について（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述）

- ① 各学年で、心の天気の入力やキーボードチャレンジ、調べ学習で積極的に学習者用端末を活用し、指標の75%以上という数値目標を達成できるようにしていく。新転任者対象のICT研修も1学期に2回取り組み、本校の特色の1つであるロイロノートアプリを活用した授業展開についても共有、協議することができている。今後は、ICT支援員の方と連携し、教職員のICTに関する技術力の向上、そして児童へのメディアリテラシーや情報モラルについても取り組んでいきたい。
- ② 「ゆとりの日」については、教職員が意識し、対応がある場合以外は退勤することができているため、今後も継続していく。ただ、仕事量が減っているだけではないため、仕事の軽重を意識し、計画的に仕事を進めていくことができるよう学年で分担して取り組んでいく。
- ③ 各学年で週に一回、朝学習で読書をする時間を確保できている。また、昼休みの図書開放や読書週間を通して、さらに児童が本に親しみが持てるように取り組んでいく。
一方で、保護者アンケートの「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている」の項目において肯定的な回答率が例年低い傾向にある。そのため、ホームページに図書開放の様子や読書週間の取り組みなどを掲載し、児童が意欲的に読書に取り組む姿を保護者の方々に広く周知していく。
- ④ 今後も学校説明会や懇談会、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通じて、教育方針や学校の取組を保護者や地域に発信していく。